

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

2019年 7月 19日

印西市長 様

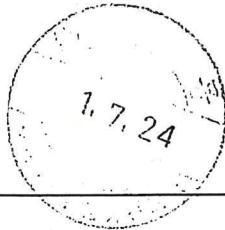
(登録者) 登録番号 —
 名称 NPO 法人ハートフルコミュニケーション
 千葉エリア
 所在地 印西市瀬戸:
 代表者職氏名 福田潔子 ㊞
 連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>家庭教育力の向上支援事業「子育てを学ぼう！ハートフルキャラバン」</p>
<p>現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)</p>	<p>核家族化が進み孤立した環境で育児に取り組まざる負えない家庭が増えてきている。仕事をしながら子育てする女性も増える中、ワンオペ育児に悩む母親も増加。SNS 等での情報があふれる中、必要な情報を選び取ることが難しく、子どもを産み育てることへの不安が広がっている。また、社会とのつながりの薄くなった今、家庭内での問題が表面化せず、虐待などの痛ましい事件が繰り返されている。子どもを健全に育てるための家庭教育力の低下が著しく、不登校やいじめ問題に親が対応できずに引きこもりへと発展するケースも増えている。</p>
<p>提案理由</p>	<p>上記のような状況の中で、子どもを健全に育てるためには、家庭教育力を向上させるための以下の対策が急務となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「子育てを学ぶ」機会を作ること ② 親同士、そして、地域との相互に支え合うつながりを作ること ③ 乳児期から思春期までの切れ目のない親への支援があること
<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1) ハートフルキャラバン「子育て講演会 & グループセッション」1 回開催 2) 乳幼児期対象ワークショップ(5 回連続講座)の開催 3) ハートフルセッションの開催 <p>子育て支援拠点での継続的な学びの場をつくる。 連続 6 回の講座を 3 か所で実施。(別紙 1 参照)</p> <p>約 60 万</p>

<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)</p>	<p>当団体では、「子どもの幸せな自立」をテーマに、親の教育力の向上を図るため、2006年のNPO設立当初より、新宿区教育委員会など、行政との協働事業を進めており、事業実績が豊富である(別紙2参照)</p> <p>「コーチング」を取り入れたプログラムはわかりやすく、日常生活ですぐに試せるものが多いので、学びの効果を実感しやすい。また、コンテンツも豊富であるため、乳幼児期から思春期に至るまで幅広い層に向けたプログラムを提供できる。人数に合わせて柔軟なプログラムを作成できるため、きめ細やかな対応が可能。電話によるオンラインコーチングでは、自宅から出てこれない人への対応も可能である。</p> <p>講師として、当法人代表理事である菅原裕子をはじめ、訓練を積んだ経験豊富なコーチが多数在籍している。</p>
<p>事業実施により、 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>【効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子育てを学ぶ場があることで、親の育児不安の解消ができ、子育てへの自信を得られる。 ② 連続講座参加により、親同士のつながりが期待でき、新しいコミュニティの創出ができる。 ③ 行政との協働事業による持続・継続性のある講座展開を図ることで、子どもの成長に併せた切れ目のない親への支援が実現できる。(例:乳幼児期WS⇒入学サポートプログラム⇒児童期WS⇒思春期WSなど) <p>【今後の展望】</p> <p>継続した講座展開ができれば、親の自主性・課題解決力が向上することにより、子育て世代の地域活動への積極的参加が期待できる。</p> <p>なぜならば、当法人のプログラムは「教え込む」のではなく、寄り添い、問いかけていくコーチングの手法を取り入れているので、参加者に「深い気づき」を与え、親の「考える力」を引き出すことが出来るからである。</p> <p>また、親がこのプログラムの恩恵を受けて、成長し、一人の大人として自立することができれば、自身が体験したプロセスを是非後進に伝えていこうという意欲につながり、継続して学び合う循環を生み出すことが出来る。</p> <p>さらに、その学びを生かせる場を行政と共に作り出すことで、子育て・親育てを健全に進める環境づくり、地域づくりにつなげていくことが可能であると考える。</p> <p>そのために、初年度は子育て世代の中でも、乳幼児期の親を中心とした学びの場を作ることから始め、5年後、10年後の未来を創る人材を育てていくことを視野に入れた多角的で、継続的な事業を今後も提案していきたい。</p>

(提案書 様式①-2)



協働の機会提案書(継続提案用)

2019年 7月 24日

印西市長 板倉正直様

(登録者) 登録番号 30-001

名称 こむnetちば

所在地 印西市若菰

代表者職氏名 安齋 美幸

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>訪問傾聴ワーカー(見守り隊) 限定地域派遣事業</p>
<p>現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)</p>	<p>現在、訪問傾聴ワーカー養成講座を 27 名の受講生で開催中。同時に、民生委員、地域包括支援センターにアンケート(総数 62)にご協力頂いた。アンケートの回答から地域の現状としては、千葉ニュータウンなど、人口が密集していて新しい地域、人口が少なく古くからある地域、関係なく、民生委員で、18 件、地域包括支援センターで 30 件と総数の約 68%から訪問して欲しい高齢者宅地域名の回答があった。うち独居 32 件(約 67%)、夫婦 10 件(20%)、親子 7 件(約 15%、1 件夫婦・親子 W 回答あり)となっており、独居の占める率が高い。高齢となり独居のため不安や寂しさを抱えて生活をしている高齢者や親子で暮らしていても関係があまり良くない高齢者、オレオレ詐欺被害者との回答もあり、定期的に関わりを持つ人が必要であることが伺える。</p>
<p>提案理由</p>	<p>現状から、不安や寂しさを抱えて生活をしている高齢者、オレオレ詐欺被害者など、社会的孤立をしている高齢者が既に地域に居ることが伺える。よって、不安や寂しさの解消や認知症の早期発見、オレオレ詐欺の防止等のため、高齢者宅への訪問が必要と考えられる。</p>
<p>提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)</p>	<p>現状から、不安や寂しさの解消や認知症の早期発見、オレオレ詐欺の防止等のため、できるだけ早く、高齢者宅への訪問が必要であるが、養成講座の受講生は、まだ 27 名のため、アンケートから地域を検討、限定し派遣をすることを提案する。と、同時に地域での支援に必要な講座を現在、受講しているものの、10 回の講座のみではなく、引き続きフォローアップ研修も重ねて提案する。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<p>発達障害理解講演会(6月9日)、ジェンダー講演会(10月20日予定)等を企画運営しており、毎月2回あるカフェも、1月から始め7月までに、12回の講座やワークショップを開催。社会福祉士、産業カウンセラーの有資格者もあり、フォローアップ講座の講師等の依頼は既に打診をしている。また、地区社協が今回は共同提案者であるため、地域にも入りやすくなる。第三者委員会の設置に向け、大学教授、他にも打診中。</p>
<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>地域包括支援センターの職員の方にご協力いただいたアンケート(総数 16)のうち、10 件が定期的に話を聴く時間が取れば、現状が変わると思われる高齢者宅があるとの回答であり、具体的な件数としては 15 件との回答であった。どういう点が変わると思われるかについては、精神的安定、1 人ではない安心感、家族の安心、認知症の進行予防、病状変化の早期発見などがあつた。</p>

(提案書 様式①-2)

協働の機会提案書(継続提案用)

令和元年 7月 24日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 23-003
 名称 NPO 法人谷田武西の原っぱと森の会
 所在地 印西市小倉台 3-1-1-406
 代表者職氏名 理事長 矢野眞理 (印)
 連絡先 白井市大山口 2-4-6-503
 電話 080-5087-7235

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	武西の里山 保全と調査事業
<p>現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)</p>	<p>約 10 年にわたって続けてきた当会の調査により、植物や昆虫それにつながる動物、また両性類などの生息実態が鮮明になってきました。その結果、どの時期にどこをどのように草刈りや外来種除去をすれば、生物多様性を維持し育むことになるのかが分かってきました。</p> <p>また、これまで1年以上にわたる印西市との協働により、草刈り作業を以前よりも効率的に広く行うことができるようになり、クズやセイタカアワダチソウ、ササ、ススキなどが繁茂してしまったエリアを、在来の植物が芽吹きやすい環境に戻すことがかなりできました。</p> <p>昔、人と生き物が共生していた里山は、人の生活様式の変化に伴い、里山と人のかかわりが薄くなり、里山の自然環境はあちこちで消滅しかけています。今、里山の環境を守る保全活動は、なくてはならないものなのです。協働事業を通して得た経験を積み上げ、その結果を生かして、多様性を守る管理方法やルールを作り、市民が参加しやすい保全方法を確立する必要があります。</p> <p>また、今後、人が入ることのリスクを最小限にとどめ、自然との共生につなげていくか、どのようにグリーンインフラとして地域の環境に利する活用計画を作っていくかという課題があります。</p>
<p>提案理由</p>	<p>印西市との協働事業を1年以上続けたことで、武西の里山の保全や調査について、意思疎通、作業協力が十分にできるようになりました。里山を保全するための課題を解決していくには、さらに協働した保全と調査を積む必要があります。経験や課題を市と共有しながら事業を進めていきたいと考え、協働事業の継続を提案します。</p>

<p>提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保全事業 <ol style="list-style-type: none"> 1) 草地の草刈り 2) 湿地の手入れ・キシノウブなどの外来種除去 3) ゴミ拾い 2. 調査・研究事業 (東邦大学・千葉県中央博・茨城県自然博 協力) <ol style="list-style-type: none"> 1) 植物 2) 動物 両生類・昆虫類・魚類 3) 水質 4) 指標種のニタリング 5) 大学(東邦大学・東京大学) の地域の環境に資する研究への協力 <ol style="list-style-type: none"> ① 植物 ② 昆虫 ③ 湿地と台地の生きものと水環境
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<p>当会は 2008 年から武西地区が千葉県企業庁から印西市に無償譲渡されるまで、企業庁に立ち入り申請を行い、環境の劣化を防ぎ、自然環境を維持する保全活動と、高い頻度で環境調査やモニタリングを行ってきました。市有地となった現在も、保全作業と調査をシステムとしてつなげ、里山の自然環境を維持・再生していく活動を続けています。</p> <p>また、安全面についても定期的に刈払機や草刈機などの安全講習を行い、技術と安全性の向上にも努めています。</p> <p>約 10 年間にわたって積み上げてきた保全の方法と、調査により得られた自然環境のデータの蓄積は、今後市が管理保全していく上で参考になると考えています。</p>
<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の劣化を防ぎ、生物多様性を維持し、育むことができる 2. 里山の景観を良好に保つことができる <p>今後の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市に隣接した生態系という特質を生かした里山の自然を再生、維持する 2. 市民と行政の協働による里山環境の保全の手法を探り、確立する

(提案書 様式①-2)

1. 7. 24

協働の機会提案書(継続提案用)

令和元年 7月24日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 28-004

名称 NPO法人 里地里山保全ねつと

所在地 印西市美瀬

代表者職氏名 理事長 高橋 幸治

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	整備事業も2年目に入り、前年度整備した地域の管理と今年度新たに整備する地域の草刈り整備を実施している。今年度も整備地域の休耕田に流入する農業用水により整備地が水浸しとなり、草刈り機が利用できず苦慮している。屋外作業のため天候にも左右されるが、整備後の姿を想像し頑張っている。
提案理由	イノシシ対策は「捕獲駆除」「防護柵」「生息環境の管理」を同時に実施することが効果的である。印西市で行っている捕獲駆除と電気柵等の防護対策に加え、市民や所有者が共同で住宅地に隣接する荒れた里山や不耕作地の整備を行ない、イノシシが生息しづらい環境づくりを実施する。そして、市民が里山に親しみ、印西の自然環境を満喫できるような里山にしたい。
提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)	現在実施中の美瀬隣接地域の環境整備は継続し、新たに周辺地域へ整備範囲を拡大したい。また、イノシシの通路となる既整備地に接続する樹林地の斜面に加え、住宅地側斜面の刈り込み整備も実施する。 イノシシの調査方法として自動カメラ等を設置し夜間の出没調査も実施する。 また、箱ワナ、くくりワナを設置し捕獲調査も実施する。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	いには野地区の住民が中心となって設立した里山の環境保全等を目的にしたNPO団体で、循環型の里山整備を実施している。 地域住民が中心となって里山整備によるイノシシ対策を実施することで、住民の環境意識の向上が期待できる。また近隣住民が実働・整備することにより、市として直接実施しづらい荒れ地の草刈りや竹林整備等の環境施策が行いやすくなると考えている。

<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>住宅地に隣接した休耕地のイノシシ生息地への環境対策を拡大することは、イノシシの出没や住民との遭遇機会の削減効果があると考えている。また、この不耕作地の整備は里山の景観改善にも繋がり、整備地周辺の里山を散策する市民の姿もたびたび見かけるようになった。今後は、散策コースの整備や里山学校のような環境教育も行っていきたい。更に里山整備の際に出る刈り草や伐採竹の堆肥化等による有効活用を進めて行く。</p>
---	--

<p>事業名</p>	<p>事業内容</p>
<p>里山整備事業</p>	<p>里山整備事業</p>
<p>里山整備事業</p>	<p>里山整備事業</p>
<p>里山整備事業</p>	<p>里山整備事業</p>
<p>里山整備事業</p>	<p>里山整備事業</p>

(提案書 様式①-2)

1.7.24

協働の機会提案書(継続提案用)

令和元年 7月 24日

印西市長 板倉正直 様

(登録者) 登録番号 29 - 002

名称 印西防災研究会
所在地 印西市武西学園台
代表者職氏名 会長向井地純一
連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	自主防災組織の活性化事業
<p>現状・課題 (協働の必要性を 示す)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、印西市の自主防災組織の役員は、約8割が、1年交代で、新任役員となる。従って、新任役員に対し「自主防災組織運営について、」の研修を継続して行う必要がある。 2、また、自主防災組織の活動のうち、①避難行動要支援者対応 ②「自助」特に、在宅避難対応についての情宣活動 ③避難所運営訓練等の取組みが不十分な傾向にある。 3、自主防災組織の未設置率も58%であり、その解消策が求められている。 4、印西市の町内会・自治会は、11の地区に分かれ、そのうち、3地区のみ、自主防災組織連絡会がある。その他の地区についても、避難所運営対応等を念頭に置くと、連絡会の設置が必要である。加えて、印西市全体としての、自主防災組織連合会の設置も求められる。
<p>提案理由</p>	<p>市防災課と協働で、自主防災組織運営の知識の啓発・普及や、自主防災組織未設置の解消推進、自主防災組織地区連絡会・全体連合会設置推進に努め、自主防災組織の活性化に取り組む。</p>

<p>運営内容 (前年度の実績を踏 まえた改善内容)</p>	<p>1、これまで作成した自主防災組織運営マニュアルの活用や、外部講師の活用を通じ、取り組みの遅れている自主防災組織の底上げを図る。</p> <p>①自主防災組織新任役員研修会 ②ワークショップを中心とした研修会 ・「避難所運営体験ゲーム」HUG ・「災害図上訓練」DIG ③「自助」特に在宅避難対応についての研修会</p> <p>2、自主防災組織未設置の解消推進 自主防災組織未設置先に対するアンケート調査結果をふまえ、自主防災組織設置のための、「規約」「防災計画」「事業計画」のひな型の策定と普及推進</p> <p>3、自主防災組織地区連絡会・全体適合会の設置推進</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<p>印西防災研究会の活動も、メンバー10人で、来年3月で丸5年。市防災課と協働で自主防災組織の活性化に取り組むことができる。</p>
<p>継続実施により 得られる効果 (自主防災組織は今後の 展望も記入)</p>	<p>市防災課との協働による、自主防災組織運営の知識の啓発・普及や自主防災組織未設置の解消推進、自主防災組織地区連絡会・全体適合会の設置推進により、自主防災組織の活性化に役立つ。</p>



(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

平成31年7月22日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 20-001
 名称 NPO法人 エコネットちば
 所在地 印西市竹袋
 代表者職氏名 理事長 斎藤 敏男
 連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業</p>
<p>現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)</p>	<p>竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業の実施</p>
<p>提案理由</p>	<p>市の水生公園構想により整備された竹袋調整池と周辺地域は、景観に恵まれ、四季の花、飛来する野鳥など、豊かな自然を楽しめる憩い場であり、市民や周辺地域の人々に愛されている。この景観と環境保全のために継続した維持管理が必要である。</p>
<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>花畑と調整池の周回遊歩道沿いの花植え、緑地の草刈、植栽管理、ごみ清掃を実施して、景観維持と快適な環境を維持する。 1. 花畑の整備 2. 定期的な草刈 3. 日常随時のごみ清掃 2. 放水口のごみ除去 (概算予算：3,000,000円)</p>
<p>貴団体の特性、協働で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</p>	<p>エコネットちばは地元で活動するNPOで、地域住民・地元町内会・商店会・学校や他市民活動団体とも協力して、花畑づくりや地域まつり(コスモスふれあいまつり)を実施してきた。この地域の維持管理を行政との協働事業で実施することで、住民からの信頼期待に応えられる。</p>
<p>事業実施により得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)</p>	<p>協働事業に提案実施して11年、継続した維持管理により、環境が保全でき年々花畑も充実してきた。今後もひょうたん島池広場が、憩い、癒し、そして健康増進にと、多くの皆さんに愛され利用されるコミュニティの場を提供できる。</p>